

---

經濟學辭典  
第2版

---

# 経済学辞典

第2版

大阪市立大学  
経済研究所編

岩波書店

経済学辞典 第2版

---

1965年9月21日 第1版第1刷発行  
1979年6月15日 第2版第1刷発行©  
1984年4月20日 第2版第4刷発行 定価 6000 円

編 集 大阪市立大学経済研究所

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5  
発 行 所 株式会社 岩 波 書 店  
電話 (03)265-4111 振替 東京 6-26240

組版:シーティエス大日本 印刷:大日本印刷 製本:宮内製本

---

Printed in Japan

落丁本・乱丁本はお取替いたします

## 第2版へのまえがき

《経済学辞典》第1版は1965年秋刊行され、幸い多くの読者に迎えられて刷を重ねた。爾来、14年の歳月が流れている。

第1版が発行されていた1960～70年代は、わが国はもちろん、世界的にも激しい変動の時代で、従来のシステムや価値観の多くは過去のものとなり、政治・経済・社会のすべての面で新しい状況や問題が生じた時期である。またこの激動のなかで、経済学の側でも、理論や分析用具の再検討・陶冶の必要に迫られ、多面的な展開をみるにいたったが、それは一面では専門化の徹底であるとともに、他方で広く学際的協力を不可欠のものとしたのである。

いうまでもなく、辞典の役割は経済学についてのたんなる断片的知識の提供にあるのではない。現実の経済事象を解明し、正しい客観的認識を得ることが経済学の課題であるかぎり、本辞典もまた以上の時代的要請に応えて、その内容を刷新し、経済学の発展を反映するものでなければならない。われわれは何よりもまずこのことを改訂の基本とし、第2版の編集に着手したのである。

1975年4月、第2版のための編集委員会を構成し、第1版の項目編成および各項目の徹底的な検討の上で、本所の全スタッフおよび本学の商経両学部の一諸氏の協力を得て新版の企画・編集にあたった。

第2版の編集にあたって、第1版刊行後10数年間における経済・社会に生じた大きな変化、またそれに対応する経済学ならびに関連諸科学の発展を反映させようとしたことはもちろんであるが、さらに、1)中項目を項目編成の基本とし、たんなることばの解説でなく、ことがらの解明に重点をおいた〈読む辞典〉としての性格を基調とすること、2)索引や項目末尾の参照項目の併用により、より広範な体系的理解と〈ひく辞典〉としての小项目的な利用を可能ならしめること、3)マルクス経済学と近代経済学のいずれの分野においても、日本の経済学界の最新最高の水準を忠実に反映させること、4)経済理論上の知識の提供だけでなく、応用領域を広くカバーすること、5)重要事項については国別対

比・特徴の理解を容易ならしめるため各国別叙述を行なうこと、6)隣接諸科学を広く収録して学際的研究に資すること、7)参考文献の詳細・厳密を期することなど、《経済学辞典》第1版の基本性格を継承した。

編集にさいしては、近代経済理論や国際経済・地域経済・都市問題その他多くの分野では全く新しい角度から項目を全面的に再構成し、稿を新たにした。反面、新しい項目を収録するため第1版にあった古代・中世経済史などの若干の項目や解説的小項目の事項をあていど犠牲にせざるをえなかった。その結果、第1版にくらべて、277項目を廃止し、新しく333項目を追加し、384項目を全面的に書きなおして、全項目の半分近くが全く一新されたものとなった。残りの項目についても加筆修正、参考文献の追加などを大幅に行ない、ほぼ全面的な改訂増補がなされた。索引についてもまったく新たに編集しなおして、索引項目の抽出・整序、相互の関連づけ、同義異語の統一など完璧を期した。したがって分量も20パーセントあまりふえ、旧版のたんなる改訂増補版というよりは実質的に新版といってよい内容をもつものである。

かえりみれば、わが大阪市立大学経済研究所の前身である大阪商科大学経済研究所が《経済学辞典》第1巻を岩波書店から刊行したのは、研究所創設まもない1930年11月であった。この《経済学辞典》は1932年5月、全5巻、総索引1巻を以て完結し、さらに36年10月追補1巻を刊行した。この辞典は、追補を含め、全7巻、5,096項目、3,652ページに及ぶ膨大なものであったが、本邦最初の科学的で総合的な経済学辞典として高い評価を受けた。

その後、よりコンパクトな小辞典の企画が1937年頃よりすすめられ、すでに一部は印刷にもとりかかっていたが、第2次大戦下の諸事情のため中絶のやむなきにいたった。戦後、この企画を継承し、全く新しい情勢のもとでつくられたのが本辞典の前身ともいふべき《経済学小辞典》であった。《小辞典》は1951年6月に、そして増訂版が1956年4月に刊行された。

《小辞典》は、第2次大戦後に開花した思想・研究の自由のもとで編纂されたとはいえ、戦前・戦時の閉塞状況下で達成され蓄積された研究水準に制約せざるをえなかった。当時はまだ外国文献の入手も容易でなく、精神的思想的に

は自由が保障されていたが、物質的には悪条件のもとで刊行されたものである。さきにのべた中項目を基本とした特徴はこの《小辞典》でつくられている。《小辞典》上梓後14年を経て1965年に刊行された《経済学辞典》第1版は、《小辞典》の基本性格を踏襲しながら、全く構想を新しくし、戦後20年の発展を経たわが国の経済学界の最新最高の水準を反映したものと自負しうるものであった。しかしすでにのべたように、第1版刊行後の10数年の歳月は、この自負を継続しうるためには、新たな第2版の編集を必要とさせるにいたったのである。

本辞典第2版の編集には崎山耕作、山本正治郎、山崎春成、奥村茂次、浜田博男、中野安、西田稔、中川信義、福田義孝の9名があたった。

おわりに、本研究所は、1978年8月1日、大阪商科大学経済研究所として創設されて以来50周年の記念の日を迎えたが、この《経済学辞典》第2版は本研究所創立50周年記念事業のひとつとして刊行されるものである。1930年以来50年の間、岩波書店との共同事業として数次にわたり経済学辞典を刊行してきたが、今次の第2版もその緊密な連携の成果である。長期間にわたる岩波書店の協力とその緻密な作業に示された出版社としての良心にたいし深甚の謝意を表したい。

1979年3月

大阪市立大学経済研究所

# 凡 例

## I 項目について

- 1) 項目の配列は表音五十音順による。カタカナの長音は無視して配列した。
- 2) 二つ以上の呼称・訳語が一般に行なわれている事項は、代表的と思われるものを初頭にあげ、他を括弧に入れて並記した。この場合、索出の便宜のため後者を〈見よ項目〉としてあげておいた。

例 産業連関論(投入産出分析)

投入産出分析 ⇒産業連関論

- 3) 相互に密接な関連のある2事項は、並記して1項目としてあつかった。この場合も後出の事項は〈見よ項目〉としてあげておいた。

例 完全雇用・不完全雇用

不完全雇用 ⇒完全雇用・不完全雇用

- 4) マルクス経済学と近代経済学と双方に共通する事項は、その基本的なものにかぎり、1, 2, で区別して、それぞれ独立の項目としてあつかった。

例 資本1                  資本2

- 5) 人名項目のうち日本人は故人に限定した。

## II 本文について

- 1) 現代かなづかいにより、漢字はなるべく当用漢字の範囲にかぎるようにつとめた。
- 2) 暦年は原則として西暦を用い、必要に応じて日本年号・中国年号を付記した。
- 3) 文中で敬称はいっさい省略した。
- 4) 参照項目はその項の本文末尾に⇒印で示したが、まれに文中に示した場合がある。
- 5) 記号

〈 〉 引用句・引用文および注意を要する術語

《 》 著書・論文・雑誌の題名

・ = - などは一般に通用している用法のほかに、次のような場合に用いた。

・ 印 外国人の姓と名との区切り (例 アダム・スミス)

= 印 互いに密接な関係にある2人の人名 (例 ヘクシャー=オリーン命題)

- 印 二つの姓の合一からなる姓、2語以上からなる外国語の仮名表記 (例 ベー  
ム-バヴェルク, ショック-エラー-モデル)

## III 索引について

索引凡例は別に掲げた(1388頁)。

## IV 参考文献について

- 1) 各項目の本文末尾に参考文献(人名項目では主著・全集著作集・参考文献)をあげた。
- 2) 参考文献の配列順序は、邦語文献・中国語文献・欧文献・ロシア語文献の順とし、

そのおのおのを原則として、邦語文献は著(編)者名の五十音順、その他は著(編)者名のアルファベット順であげた。ただし、学説史・論争史に関する項目などでは、本文との照応上この順序によらなかった場合がある。

3) 参考文献は単行本の場合は

著(編)者名、書名、出版社名(邦語文献のみ)、刊行年、をこの順序で記載した。

4) 雑誌掲載論文の場合は

筆者名、論文題名、掲載誌名、巻号、刊行年、をこの順序で記載し、掲載誌名以下を括弧でくくった。

5) 単行本所収の論文の場合は、筆者名、論文題名のあとに、その掲載書を3)の形式に準じて括弧にくくって示した。

6) 外国文献で邦訳書があるものは、できるかぎり訳書を付記し、3)の形式に準じて括弧にくくって示した。数種の訳書がある場合は、原則として最新訳または文庫本をあげた(文庫本では刊行年を省略)。

7) マルクス、エンゲルス、レーニンの著作にかぎり、邦訳書は大月書店版のマルクス＝エンゲルス全集、レーニン全集のそれぞれの巻数のみを示した。この巻数はそのままオリジナルテキストの全集の巻数に対応しているからである。大月書店版以外の邦訳書は、それぞれの人名項目で詳しく記載した。

8) 略号

B.—Bulletin

J.—Journal

Jb.—Jahrbuch

Jb-r.—Jahrbücher

R.—Review, Revue

Z.—Zeitschrift

A. A. A.—American Accounting Association

C. C. M.—Cowles Commission Monographs

Encycl. Soc. Sci.—Seligman, E. R. A.(ed.), Encyclopaedia of the Social Sciences

G. d. S.—Grundriss der Sozialökonomik

HB Finanzwiss.—Handbuch der Finanzwissenschaft

HWB Sozialwiss.—Handwörterbuch der Sozialwissenschaften

HWB Staatswiss.—Handwörterbuch der Staatswissenschaften

NBER—National Bureau of Economic Research

A. Amer. Acad. polit. soc. Sci.—Annals of the American Academy of Political and Social Science

A. Sozialwiss. Sozialpol.—Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik

- Accting R.*—Accounting Review  
*Allgem. statist. Archiv*—Allgemeines Statistisches Archiv  
*Amer. econ. R.*—American Economic Review  
*Banca Naz. Lav. quart. R.*—Banca Nazionale del Lavoro quarterly Review  
*Berichte Landwirtsch.*—Berichte über Landwirtschaft  
*Canad. J. Econ.*—Canadian Journal of Economics  
*Econ. Dev. cult. Change*—Economic Development and Cultural Change  
*Écon. et Statist.*—Économie et Statistique  
*Econ. Hist. R.*—Economic History Review  
*Econ. int.*—Economia Internazionale  
*Econ. J.*—Economic Journal  
*Econ. Rec.*—Economic Record  
*Fed. Reserve B.*—Federal Reserve Bulletin  
*Harvard Busin. R.*—Harvard Business Review  
*Hitotsubashi J. Econ.*—Hitotsubashi Journal of Economics  
*Industr. Manag. R.*—Industrial Management Review  
*Int. econ. Pap.*—International Economic Papers  
*Int. econ. R.*—International Economic Review  
*Int. Lab. R.*—International Labour Review  
*Int. soc. Sec. R.*—International Social Security Review  
*J. agric. Econ.*—Journal of Agricultural Economics  
*J. Amer. statist. Ass.*—Journal of the American Statistical Association  
*J. Busin.*—Journal of Business  
*J. econ. Hist.*—Journal of Economic History  
*J. econ. Lit.*—Journal of Economic Literature  
*J. econ. Theory*—Journal of Economic Theory  
*J. Farm Econ.*—Journal of Farm Economics  
*J. int. Econ.*—Journal of International Economics  
*J. Money, Credit & Banking*—Journal of Money, Credit & Banking  
*J. polit. Econ.*—Journal of Political Economy  
*J. Roy. Statist. Soc.*—Journal of the Royal Statistical Society  
*Jb-r Nat.-ökon. Statist.*—Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik  
*Konj. u. Krise*—Konjunktur und Krise  
*Mthly. Rep. Dtsche. Bundesbank*—Monthly Report of the Deutsche Bundesbank  
*Nat. Tax J.*—National Tax Journal  
*Oxford econ. Pap.*—Oxford Economic Papers

- Quart. J. Econ.*—Quarterly Journal of Economics
- Quart. R. Econ. Busin.*—Quarterly Review of Economics & Business
- R. Écon. polit.*—Revue d'économie politique
- R. Econ. Statist.*—Review of Economics and Statistics
- R. econ. Stud.*—Review of Economic Studies
- Sci. & Soc.*—Science & Society
- Scott. J. polit. Econ.*—Scottish Journal of Political Economy
- South. econ. J.*—Southern Economic Journal
- Staff Pap.*—IMF Staff Papers
- Weltwirtsch. Archiv*—Weltwirtschaftliches Archiv
- Wirtsch.-wiss.*—Wirtschaftswissenschaft
- Z. Betriebswirtsch.*—Zeitschrift für Betriebswirtschaft
- Z. ges. Staatswiss.*—Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft
- Z. ges. Versicherungswiss.*—Zeitschrift für die gesamte Versicherungswissenschaft
- Z. Nationalökon.*—Zeitschrift für Nationalökonomie
- 
- Вест. статист.*—Вестник статистики
- Вопр. экон.*—Вопросы экономики
- Вопр. филос.*—Вопросы философии
- План. хоз.*—Плановое хозяйство

# 者 筆 執

|                                      |                               |                              |                                 |                              |                                |                                   |                               |                                   |                                |                               |                                    |                               |                             |                                 |
|--------------------------------------|-------------------------------|------------------------------|---------------------------------|------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| 夫一之也吉要郎治清男英雄雄二吉春一二郎道三隆吉一郎一一郎力充通二郎男好祐 | 志博英真祐二榮郁英泰啓岱滿幸誠次昭俊穰一英良一秀英朔茂与直 | 外山立部尾沼川本津本田東毛上堀野田見海口嘉内坂田野前田部 | 木山足阿荒飯飯生池石石井伊稻井今入岩上潮内江蛇大大逢太大大岡岡 | 青秋遊阿荒飯伊池石石磯井伊井今入岩上牛内浦越大大大大岡岡 | 井山部松良裕間井田本村出藤上川崎田尾橋田後藤泉川島塚橋和崎部 | 和郎藏統雄雄康隆誠介夫義文憲巳清正稜雄造敏朗計典明雄三一之憲二一良 | 夫郎久松良裕素定忠隆嘉淳太郎一真勝吉昌和輝行政雄秀隆達陽利 | 秀功一成郎人繁昭孝夫助進世晴二丸子融益三省彦二爾吉彦勉士雄治雄松保 | 沢岡島部憲東田知良穎和善英光完晴喜弘草省義博讓湘泰仁久周輝榮 | 相赤麻安荒飯伊池石石磯市伊井井岩植植臼内宇江遠大大大大岡岡 | 夫彦夫麟郎憲鼎樹彦郎雄政雄一郎吉雄勝充夫秋也郎夫夫郎稔一郎介郎雪稔之 | 哲昌義次正春勝吾常武貞一政康忠敏和裕治忠義朴慎一八之三祐裕 | 川木野孫川牧田野井川原渡藤東原上野田海口村大崎谷野屋田 | 相青明安天荒飯飯池石石石一伊稻井伊入岩上氏内内江江大大大大岡岡 |
|--------------------------------------|-------------------------------|------------------------------|---------------------------------|------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|

男雄勝雄一郎士孝功一太郎才二郎二二男勇二三造清稔雄降欣一郎靖治統樹美一郎卓昌郎  
 和信広和一敬通伍太郎不二慎俊貞悦増幸俊天和喜娑衆秀尚長安義三  
 川塩棕智一原能井山藤子ハル合口崎野井原下村本木田川天代藤袈藤村藤伯部本口竹藤金  
 小置小越小野小戒梶片加藤子神川川河河岸北木木木朽倉黒呉神小後小林小近佐阪阪佐佐

一登宏明男雄稔三二夫治文稔治蔵造豊夫男一郎誠健夫則一也宏弘稔郎彦作建夫  
 良川寛朝久勝真謙陸卓武信文重光康敏一捷田迪計正新哲好純太楠耕木和  
 本川名野上道治山藤子田用北崎地池川山村元本沢田泉賀藤尾林永藤田本山々藤  
 岡小奥長小尾海嘉片加金鎌加川川河菊北北木木楠熊栗黒小古後後小是斎坂阪崎佐

次郎二朔政彦進寿薫彦晃喜穂光夫侃郎也直夫郎夫正章明一郎夫雄齊男孝隆一男三竺  
 愛八正彦光義長俊重速秀公治哲敬立三竜尚義一邦唯賢路安慶正儀藤  
 本浩村崎塚野道原桐藤子田田上保田林本村村和良谷林住泉野藤西林山藤井本坂川藤  
 岡小奥尾鬼小海笠片加金金龜川川上岸北木木吉熊倉黒小神後小小小斎酒坂向笹佐

達一次二甫爾明幸昇郎雄生明三弘郎郎貫夫一男和生清男蔵次孝昇人二夫八郎郎  
 明喜茂英信啓敏三正敬利俊哲一誠道和元忠芳和一精義直文一平靖洋彦七郎  
 村川村崎木野塚川岡藤松子井合口島本原下村成保田沢池田谷野林室藤井元本靖道井  
 岡小奥尾鬼小貝香片加角金龜河川川河岸北木木清久倉黒小幸小琴小小近酒坂阪作里

博子男夫裕彦一滋郎甫夫介男一郎彦夫哉治武誠治宏元晴夫美三夫治吉夫郎樹良  
 藤陽澄和恭嘉林士隆明圭光諒一江節暢利久祥一信生尚庄昌弘甚秀善一茂重  
 藤野田垣田恭村海川永野木木江岡垣木野橋口富内坂中田井井田村園山永  
 佐佐重柴柴島志東新末杉鈴鈴鈴住瀬高高高高高田竹竹田巽田田谷玉近筑津津寺遠德

明稔一夫衛昭德雄敏一滋平夫德豐子典夫昌三朗郎一子雄郎弘弘平典郎男匠榮毅三治  
 經晃靖德政正房佐素忠尚芳已種督昭敏太啓美孝一正敏知良康幸内正衆政  
 藤野田池田谷山井藤谷山木田尾島木梨橋橋菊內惠龍元中口垣波康幸内正衆政  
 佐佐重芝柴淡清下白真杉杉鈴鈴角瀬副高高高高瀧澤竹竹竹館建田谷玉丹長津角手暉常

進雄一子治猛二一博彦朗靖夫二男男玄馨郎雄雄啓夫一三行助也茂紀躬昌郎藏朗淑  
 藤正祐悅幸瑛瑛雅俊重淑昌喜紀秀八哲秀隆脩吉重清勝正忠義六勇光永  
 方谷原田山水井庄江本木田谷宇木田橋橋林内田村岡中辺瀬村塚屋口本永  
 佐実塩篠柴柴清下白新杉杉鈴鈴住隅惣高高高高高竹武竹多楯田田種田遲辻土出寺時

幸治衛美午自二一幸統平郎郎夫弥彦義郎博徹郎裕明温郎二陽次晴良郎平生激郎三嘉久  
 定賢兵重進拓亮浩邦芽一四鴻雪禄一恒幸賀橋長芳敬太京菊真新井芳知厚真大鉄田嘉久  
 藤見田主田原津川谷沢浦原木木谷恒幸賀橋長芳敬太京菊真新井芳知厚真大鉄田嘉久  
 佐里塩地芝島下庄新杉杉鈴鈴鈴住関高高高高高田竹竹田伊田田谷玉地辻津都寺戸





# 目 次

## ア

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| IMF ⇒国際通貨基金 (404)                 |    |
| IMF 特別引出権 ⇒SDR (48)               |    |
| ILO ⇒国際労働機関 (411)                 |    |
| アイサード                             | 1  |
| ICI                               | 1  |
| アイデンティフィケーションの問題(識別の問題、<br>認定の問題) | 2  |
| アグリビジネス                           | 3  |
| アジアの生産様式                          | 4  |
| アジアの専制主義                          | 4  |
| アッヘンワル                            | 6  |
| 圧力団体                              | 6  |
| アフタリオン                            | 7  |
| アヘン戦争                             | 7  |
| アヘン貿易                             | 7  |
| 天野為之                              | 8  |
| アメリカ会計原則                          | 8  |
| アメリカ学派                            | 9  |
| アメリカ経営学                           | 10 |
| アメリカ資本主義                          |    |
| 1 資本主義の発展                         | 11 |
| 2 第2次大戦後                          | 13 |
| アメリカ独立戦争                          | 15 |
| アモン                               | 16 |
| アロー                               | 16 |
| 安価な政府                             | 16 |
| アンクタッド(UNCTAD) ⇒国連貿易開発会議<br>(432) |    |
| アンダーソン                            | 17 |
| 安定貨幣 ⇒中立貨幣・安定貨幣 (888)             |    |

## イ

|                   |    |
|-------------------|----|
| EEC ⇒欧州経済共同体 (58) |    |
| イギリス革命            | 17 |
| イギリス資本主義          |    |
| 1 資本主義の発展         | 18 |
| 2 第2次大戦後          | 20 |
| イーゲーファルベン         | 21 |
| 移行論争              | 21 |
| 意思決定              | 22 |
| 石橋湛山              | 23 |
| 依存効果              | 23 |
| イタリア資本主義          |    |
| 1 資本主義の発展         | 24 |
| 2 第2次大戦後          | 24 |
| 一次産品輸出国機構         | 25 |
| 一般組合              | 26 |
| EDP 会計            | 27 |
| イデオロギー            | 27 |
| 移動平均法             | 28 |

|                    |    |
|--------------------|----|
| 猪俣津南雄              | 29 |
| 移民                 | 29 |
| 入会権                | 30 |
| 医療経済               | 31 |
| 医療保険               | 31 |
| イングランド銀行           | 32 |
| 因子分析               | 32 |
| インダストリアル-エンジニアリング  | 33 |
| インデクセーション          | 34 |
| インド資本主義            | 34 |
| インフレ-ギャップ・デフレ-ギャップ | 36 |
| インフレーション           | 36 |

## ウ

|                       |    |
|-----------------------|----|
| ヴァイナー                 | 38 |
| ヴァルガ                  | 38 |
| ウィクセル                 | 39 |
| ウィクセルの累積過程            | 39 |
| ウィーザー                 | 40 |
| ウィットフォーゲル             | 40 |
| ウィーン学派 ⇒オーストリア学派 (62) |    |
| ヴィンティジ-モデル            | 41 |
| ウェークフィールド             | 41 |
| ウェスト                  | 42 |
| 上田貞次郎                 | 42 |
| ウェーバー(A.)             | 42 |
| ウェーバー(M.)             | 43 |
| ヴェブレン                 | 44 |
| ウォール街                 | 44 |
| 迂回生産                  | 44 |
| ウクラード                 | 45 |
| 請負制                   | 46 |
| 打ちわし                  | 46 |
| 宇野弘蔵                  | 46 |
| 売上税                   | 47 |

## エ

|                     |    |
|---------------------|----|
| 英連邦特惠制度             | 47 |
| エコ-エフェクト            | 48 |
| SNA ⇒国民勘定体系 (419)   |    |
| SDR(IMF 特別引出権)      | 48 |
| えた・非人               | 50 |
| X-非効率               | 50 |
| エッジワース              | 50 |
| エネルギー経済             | 51 |
| FAO ⇒国連食糧農業機関 (432) |    |
| エリート                | 52 |
| 円                   | 52 |
| エンクロージャー            | 54 |
| エンゲルス               | 55 |
| エンゲル法則              | 56 |

## オ

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| OR ⇒オペレーションズ-リサーチ (66)               |    |
| オイケン                                 | 57 |
| OECD ⇒経済協力開発機構 (297)                 |    |
| オイラーの定理                              | 57 |
| 欧州経済共同体                              | 58 |
| 欧州石炭鉄鋼共同体                            | 60 |
| オーエン                                 | 61 |
| 大蔵省資金運用部                             | 61 |
| 大蔵省証券                                | 62 |
| オーストリア学派(ウィーン学派)                     | 62 |
| オートメーション                             | 63 |
| オーバー-ローン                             | 65 |
| オープン-マーケット-オペレーション ⇒公開<br>市場政策 (355) |    |
| オペック(OPEC) ⇒石油輸出国機構 (787)            |    |
| オペレーションズ-リサーチ                        | 66 |
| オリーン                                 | 67 |
| 卸売商業                                 | 67 |

## カ

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 海 運                        | 69 |
| 海運市場                       | 70 |
| 海運同盟                       | 70 |
| 外貨準備                       | 71 |
| 回帰分析                       | 71 |
| 階 級                        | 73 |
| 会計学                        | 74 |
| 外国為替                       | 76 |
| 外国為替学説                     | 77 |
| 外国為替管理                     | 79 |
| 外国為替銀行                     | 80 |
| 外国為替市場の安定性                 | 80 |
| 外国為替政策                     | 81 |
| 外国為替相場                     | 83 |
| 外国為替投機                     | 84 |
| 外国人労働者                     | 85 |
| 会社更生                       | 86 |
| 会社法                        | 86 |
| 海上保険                       | 87 |
| 外部経済・内部経済                  | 88 |
| 開放耕地制度                     | 88 |
| 開放体系 ⇒封鎖体系・開放体系 (1144)     |    |
| 海洋法                        | 89 |
| カウツキー                      | 89 |
| 価 格                        | 90 |
| 価 格(社会主義下の)                | 91 |
| 価格革命                       | 92 |
| 価格決定メカニズム                  | 93 |
| 化学工業                       | 94 |
| 価格差別                       | 95 |
| 価格政策                       | 95 |
| 価格先導制 ⇒プライス-リーダーシップ (1169) |    |
| 科学的管理                      | 96 |
| 華 僑                        | 97 |
| 確 率                        | 98 |
| 確率過程                       | 98 |

|                             |     |
|-----------------------------|-----|
| 確率分布                        | 99  |
| 確率モデル                       | 100 |
| 確率論                         | 102 |
| 家計調査                        | 103 |
| 火災保険                        | 104 |
| 貸 出                         | 105 |
| 貸付資本 ⇒利子つき資本 (1305)         |     |
| 貸付信託                        | 106 |
| 果樹作                         | 106 |
| 過剰就業                        | 107 |
| カースト                        | 108 |
| 仮説検定論                       | 109 |
| 寡 占                         | 110 |
| 過 疎                         | 112 |
| 下層社会                        | 113 |
| 家族主義                        | 114 |
| 家族制度                        | 115 |
| 加速度原理                       | 116 |
| 価 値                         | 116 |
| 価値革命                        | 118 |
| 価値形成過程・価値増殖過程               | 118 |
| 価値形態                        | 119 |
| 価値自由                        | 121 |
| 価値生産物・生産物価値                 | 121 |
| 価値判断論争                      | 122 |
| 価値表章                        | 122 |
| 価値法則                        | 123 |
| 価値法則(社会主義下の)                | 124 |
| 合作社                         | 125 |
| カッセル                        | 126 |
| ガット(関税と貿易に関する一般協定)          | 126 |
| 活動分析                        | 127 |
| 割賦販売                        | 129 |
| 過渡期論                        | 129 |
| 金井延                         | 130 |
| 家内労働                        | 130 |
| 株 式                         | 131 |
| 株式会社                        | 132 |
| 株式会社発達史                     | 133 |
| 株式市場                        | 135 |
| 株式プレミアム                     | 136 |
| 株式分割                        | 137 |
| 株仲間                         | 137 |
| 貨 幣                         | 137 |
| 貨 幣(社会主義下の)                 | 139 |
| 貨幣学説                        | 139 |
| 貨幣価値変動会計                    | 141 |
| 貨幣金融制度(各国)                  |     |
| 1 アメリカ                      | 142 |
| 2 イギリス                      | 143 |
| 3 ソ 連                       | 145 |
| 4 中 国                       | 146 |
| 5 ドイツ                       | 147 |
| 6 日 本                       | 148 |
| 7 フランス                      | 150 |
| 貨幣購買力説                      | 151 |
| 貨幣錯覚                        | 151 |
| 貨幣市場 ⇒金融市場(貨幣市場・資本市場) (254) |     |
| 貨幣数量説                       | 152 |
| 貨幣の均衡                       | 153 |